

## 情報処理安全確保支援士 講評

### 【総評】

情報処理安全確保支援士試験(SC試験)は、前回の秋期試験から、旧来の午後Ⅰ・午後Ⅱ試験が一つの午後試験として統合され、記述式問題4問中の2問を150分で解答する出題構成に変更されています。そして、4問の出題テーマはバランスよく分散され、技術者や管理者などいずれの立場の受験者の方でも選択し易い出題構成となっていました。しかし、今回の試験では、管理面での出題がほとんどなく、技術的な内容の出題ばかりでした。また、問題文冊子のページ数は前回試験よりも8ページも増え、解答する上での読解時間の負担が増えています。したがって、技術的な知識の有無で解答できるか否かが決まる設問が多く、図や表から読み取らなくてはならない条件設定なども多岐にわたることになり、難易度は前回試験より高くなっているといえます。受験者にとっては、問題選択の自由度も狭まってしまい、新形式の試験への移行で謳われていた恩恵はあまり感じられないかもしれません。

### 【午前Ⅱ】

出題分野については、重点分野とされるレベル4の「セキュリティ」から17問、「ネットワーク」から3問出題されたほか、レベル3の「データベース」「システム開発技術」「ソフトウェア開発管理技術」「サービスマネジメント」「システム監査」の各分野から1問ずつ出題され、出題範囲をすべてカバーしています。出題分野については、レベル4の重点分野からの出題数が全体の8割を占め、重点分野に偏った出題構成が定着しています。

情報処理安全確保支援士の午前Ⅱ問題としては、出題内容、難易度ともに標準的なものであったといえます。過去問題あるいはその変形と思える問題は、8割近くを占めています。このうちSC試験からの再出題は14問で、特に今回は令和4年秋期試験からの出題が多くなっています。見慣れた問題が多いため、過去問演習を行っていれば、合格点の6割を超えることは難しくないと考えます。

今回の新規出題としては、問7のISMAP-LIUクラウドサービス登録規則に関する問題、問8のセキュリティ対応組織のマネジメントの成熟度評価モデルとしてのSIM3に関する問題、問17のソフトウェアの脆弱性管理ツールとしても利用されるSBOMに関する問題、問20のCache-Controlヘッダの設定に関する問題、問23のソフトウェア開発時に形式手法を用いる際の検証方法に関する問題などが目立ちます。

### 【午後】

今回の午後試験は、受験者の負担や出題内容の観点から見ると、4問とも旧来の午後Ⅰ試験を旧来の午後Ⅱ試験のボリュームに引き延ばしたように感じられるものでした。問題文のボリュームは、最小でも9ページあり、10ページに及ぶ問題も2問出題されました。全体的に細かい設定も多く、問題文の読解に時間がかかるため、解答時間に余裕はなかったかもしれません。

問1はクラウドサービスを用いて構築するシステムのAPIセキュリティに関する問題であり、Webサイトの脆弱性診断やWAFのルール設定といった技術的な知識が問われています。

問2はリモートワーク用のVPN装置への攻撃やDDos攻撃を題材にした問題であり、これらのサイバー攻

撃の技術的な知識や対応が問われています。

問3はWebアプリケーションのさまざまな脆弱性を取り扱ったWebサイトのセキュリティに関する総合問題であり、クロスサイトスクリプティング、クロスサイトリクエストフォージェリ、サーバサイドリクエストフォージェリ、認可制御の不備などに関する技術的な知識や対応が問われています。

問4はWeb受注システムを題材にしたWebアプリケーションセキュリティ・セキュアプログラミングに関する問題であり、セキュリティレビューに応じたソースコードの修正などが問われています。

<午後問題テーマ>

問1 APIセキュリティ

問2 サイバー攻撃への対策

問3 Webセキュリティ

問4 Webアプリケーションプログラム

以上